

学生募集活動

2009年度 入試について

2009年度入試の特徴は、景気後退による地元志向の強まりとセンター試験の難化の影響を受けたことです。これらにより東京地区・近畿地区の大規模私立大学の中に

も志願者が大幅減となる目立つ中、本学は統一入試の新規導入などもあり、志願者数が前年比3,111人増(3.8%増)と大健闘しています。

学部	2008年度(人)	2009年度(人)	対前年度増減(人)	前年比率
法学部	18,897	17,405	▲ 1,492	92%
経済学部	17,326	18,879	▲ 1,553	109%
商学部	13,467	12,725	▲ 742	95%
理工学部	16,140	18,055	▲ 1,915	112%
文学部	10,852	13,442	▲ 2,590	124%
総合政策学部	5,299	4,586	▲ 713	87%
計	81,981	85,092	3,111	104%

※前年比率は四捨五入した数値

■ 入試改革その1

法・経済・商・総合政策の4学部で「統一入試」を実施

2月9日の試験だけで、複数の学部を出願・受験することができるようになりました。

最大11の出願が可能ですが、選考料の特例措置もあり、1つのみ出願する場合は、35,000円ですが、2つ目の出願からは1つ

につき15,000円の追加で受験できます。一般入試やセンター試験利用入試との併願も可能で、中央大学を上位の志望順位とする受験生にとっては、合格のチャンスがさらに拡大し、6,080名の受験者が集まりました。

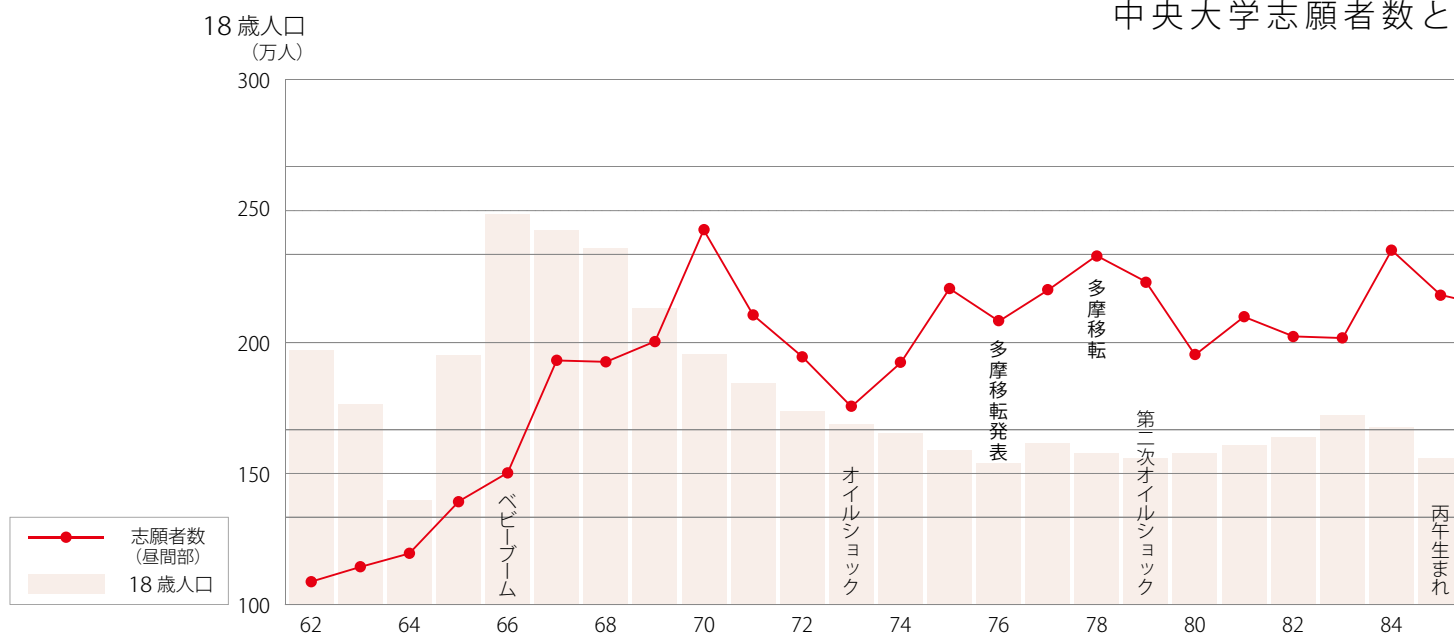
■ 入試改革その2

受験機会が拡大した理工学部の入学試験

生命科学科の新設を契機に、一般入試の理科「生物」が7学科で選択可能になりました。

自己推薦入学試験が昨年までの6学科から全9学科に拡大しました。

中央大学志願者数と



■ 選考料の特例措置

一般入試の選考料で合格のチャンスが複数回

一般入試出願者で、同一日程、同一学部（法学部は同一学科）の一般入試とセンター試験利用入試を併願し、同一願書で出願した場合、一般入試の選考料（35,000円）となる選考料の特例措置があります。

センター試験利用入試には一般入試の得点の一部とセンター試験の結果で合否を判定するセンター併用方式とセンター試験の結果だけで合否を判定するセンター単独方式があり、選考料は以下の通りとなっています。

例えば、法学部法律学科を右のように3方式すべて出願した場合、通常だと3方式の合計69,000円が、特例措置適用により35,000円となります。	一般入試	35,000円	特例措置が適用されると 35,000円
	センター併用方式	19,000円	
	センター単独方式	15,000円	
	計	69,000円	

■ 広がる試験期間、多様な入試方式で、受験機会も拡大

10年前は、2月10日から16日までの7日間しか設定されていなかった一般入試の試験期間が、2009年度には一般入試、センター

試験併用方式、統一入試と多様化し、試験期間も10日間に拡大しました。

入学試験日一覧（2009年）

2月8日(日)	2月9日(月)	2月10日(火)	2月11日(水)	2月12日(木)	2月13日(金)	2月14日(土)	2月15日(日)	2月16日(月)	2月17日(火)
理工学部	法学部 経済学部 商学部 総合政策学部	文学部	法学部 (国際企業関係法学科)	法学部 (法律学科)	法学部 (政治学科)	経済学部 (経済学科、経済情報システム学科、公共・環境経済学科)	経済学部 (経済学科、国際経済学科)	総合政策学部	商学部 (会計学科、商業・貿易学科)
センター併用方式 (理数選抜入試)	統一入試	一般入試	一般入試 センター併用方式	一般入試 センター併用方式	一般入試 センター併用方式 I	一般入試 I センター併用方式 I	一般入試	一般入試 センター併用方式	一般入試 II センター併用方式 II

18歳人口の推移

